

眼 科

1. スタッフ

科長（教授）	蕪城 俊克
医員（名誉教授）	梯 彰弘
（講師）	高野 博子
	中川 卓
	田中 克明
（助教）	近藤 由佳
シニアレジデント	5 名

2. 診療科の特徴

当科は眼科疾患全般にわたって診療を行うように心がけている。特に積極的に最新の診療を行っている疾患は糖尿病網膜症、網膜剥離、加齢性黄斑変性症などの難治性網膜硝子体疾患、ぶどう膜炎、緑内障、ドライアイや角膜感染症、角膜混濁などの角膜・結膜疾患である。

糖尿病網膜症は発症予防、および進行抑制の観点から当センター内分泌代謝科と連携して糖尿病網膜症に対する最適な血糖コントロールおよび薬物治療を行っている。また増殖前糖尿病網膜症に対してはレーザー治療を、増殖糖尿病網膜症に対しては硝子体手術を積極的に行っている。特に増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術においては当科独自の手術法である **Total en bloc excision technique** を用いて手術を行っている。難治症例が多く集まる本センターではあるが、良好な手術成績を収めている。また増殖糖尿網膜症の末期的状態である血管新生緑内障に対しては増殖性硝子体網膜症手術やチューブシャント手術を行い、良好な成績を得ている。糖尿病黄斑浮腫に対

して抗 VEGF 抗体の硝子体注射を軸として行っている。

網膜剥離に対するバックル手術においては自治医大方式である低侵襲で網膜復位率の高い 2 段階手術を基本的に行っている。また後極部裂孔や多発裂孔、巨大裂孔を伴う難治性の網膜剥離に対しては硝子体手術を第一適応とし、高い網膜復位率を誇っている。加齢性黄斑変性症に対しては抗 VEGF 抗体の硝子体注射や光線力学療法（PDT）を行い、良好な成績を得ている。また隔週水曜日には小児眼科外来を設けており、斜視・弱視や未熟児網膜症の検査を行っている。第 4 木曜日にはロービジョン外来を設けロービジョン治療を行っている。

ぶどう膜炎は感染性、非感染性すべてのぶどう膜炎に対応している。感染性ぶどう膜炎に対する眼内液の PCR 検査が先進医療認定施設を受け（2020年10月）、精度の高い診断から適切な治療に繋がっている。非感染性ぶどう膜炎には蛍光眼底造影や光干渉断層計などの画像検査を用いた鑑別診断および活動性評価を行っている。再発を繰り返す難治例に対しては TNF 阻害薬を用いた治療も行っている。2021年 6 月より眼内悪性リンパ腫に対する脳播種抑制を目的とした BTK 阻害薬の医師主導臨床試験を行っている。2024年 3 月までに参加施設中トップの 9 症例を登録した。

近年、緑内障の手術目的の初診が増えており、原発緑内障、ぶどう膜炎続発緑内障、血管新生緑内障の症例が多く、線維柱帯切除術・線維柱帯切開術・緑内障インプ

ラント手術などの複数の術式を症例に応じて使い分けて手術を行っている。

角膜混濁や角膜穿孔などの角膜移植を必要とする角膜疾患に対しては角膜移植手術を行っている。当センターで唯一移植医療を行っている。国内ドナー角膜は角膜全層移植に使用し、輸入角膜では角膜パーツ移植も行いクオリティーの高い角膜移植を行っている。

増加の一途を辿っている白内障手術に対応するため白内障日帰り手術と入院による手術の二つの選択肢を用意し白内障手術待機期間の短縮を図っている。

・施設認定

日本専門医機構 日本眼科学会眼科研修プログラム施行施設（基幹研修施設）

・専門医

日本眼科学会専門医

蕪城俊克、梯 彰弘、高野博子、
榛村真智子、中川卓、田中克明

・日本網膜硝子体学会 PDT 認定医

蕪城俊克、梯 彰弘

・ボトックス注射認定医

蕪城俊克、齊間至成

・iStent 手術認定医

蕪城俊克、中川卓、梯 彰弘

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数 1,308人

再来患者数 21,541人

2) 入院患者数（病名別）

入院患者総数（延べ人数） 合計：941名

病 名	患者数
白内障	384
緑内障	180
硝子体混濁	88
網膜剥離	76
網膜前膜	64
糖尿病網膜症	47
眼内レンズ脱臼・水晶体落下	34
黄斑円孔	25
ぶどう膜炎	15
硝子体出血・眼底出血	15
視神経炎・バセドウ病眼症	11
角膜疾患	8
急性閉塞隅角緑内障	5
角膜穿孔・眼球破裂	4
眼内炎	4
網膜分離症	2
その他	15

3-1) 手術症例病名別件数 1,372件

手術名	件数
白内障手術* （白内障手術のみ）	697
硝子体手術 （白内障同時手術を含む）	413
バックリング手術	8
緑内障手術 （白内障同時手術を含む）	182
斜視手術	2
角膜移植術	6
角膜手術	26
眼球内容物除去術	3
眼瞼手術	17
結膜手術	10
涙道手術	2
睫毛電気分解術	1
その他	20

* 多焦点レンズを用いた白内障手術12件を含む

3-2) 白内障手術 術中合併症

内訳		件数
後囊破損	(硝子体処理不要)	7
	(硝子体処理要)	20
チン小帯断裂	(硝子体処理不要)	2
	(硝子体処理要)	14
核落下	(硝子体処理要)	6
合 計 (重複有)		49

3-3) PDT 実施件数 (件)

12件

4. カンファランス

- ・FAG・画像カンファレンス：
水曜日午後5：30～6：00
- ・術前カンファレンス：
毎週月曜日、水曜日午後5：00～5：30
- ・初診患者検討会
毎週金曜日午後5：00～6：00
- ・オープンカンファレンス：
自治医科大学附属さいたま医療センター
眼科病診連携クリニカルカンファレンス
(日本眼科学会専門医制度)
毎年8月第4土曜日午後3：00～6：00

5. 研究・学会活動

糖尿病眼合併症の薬物治療の確立に向けて、鳥居薬品と当センターで共同開発した世界初の自然発症糖尿病眼合併症モデル動物のSDTラットを使用し、その研究をすすめてゆく。2023年度のぶどう膜炎全国疫学調査を行う。眼底画像検査を用いたぶどう膜炎の原因診断支援システムの作成を目指して研究を進める。眼内悪性リンパ腫の臨床研究を推進する。角膜移植を積極的に行ってゆく。またさらにSDTラットに肥

満遺伝子を導入したSDT fatty ラットの糖尿病眼合併症の研究も進めてゆく。

6. 部門・部署ごとの事業計画

日帰り白内障手術を含めた手術件数を増やすこと、および年初に設定した入院稼働額目標は達成できたが、外来稼働額は目標を下回った。2024年度は手術件数のさらなる増加、特に緑内障手術や眼内レンズ強膜内固定術の件数増加を目指す。白内障手術の術中合併症の減少を目指す。また2021年より開始した「眼内悪性リンパ腫に対する脳播種抑制を目的としたBTK阻害薬の医師主導臨床試験」の完遂(2026年3月まで)を目指す。